

## 子どもでてんかんと間違われやすい病気

子どもではてんかん発作を起こすてんかんと似たような病気がいくつもあります。

たとえば、実際に全身けいれんを起こすものとしては、たとえば熱性けいれんや泣き入りひきつけ、低血糖、軽症胃腸炎関連けいれんなどが挙げられます。またけいれんではありませんが、発作と見間違うものとしてはチックや夜驚症、睡眠時ミオクローヌス、身震い発作、失神などがあります。動きだけで見分けることが難しい場合もありますが、ヒントになるのは症状が出現するタイミングや背景です。たとえば熱がある乳幼児であれば、通常は第一に熱性けいれんが疑われるでしょう。発症年齢や熱の有無、胃腸炎の有無、眠っているときなのか起きているときのかなど、「発作」以外の情報も診断には重要です。他の臓器、例えば心電図の異常はないかなど細かくチェックすることもあります。

てんかんだどうか区別が難しい場合は、MRI検査、そして脳波検査を行います。しかし、子どもの場合ここでひとつ忘れてはいけないのは、「脳波異常があれば必ずてんかん」というわけではないということです。健康な子どもの数パーセントには脳波異常があるとされています。脳波とビデオを同時に記録する「長時間ビデオ脳波記録」という検査を行い、発作症状とその時の脳波変化が一致するかどうかを確認することで、より正しい診断に至ることができます。

